

2025 年新年のご挨拶

平子 玲子

明けましておめでとうございます。皆さん穏やかな新年を迎えられたことと思います。日本は平和を謳歌していますが、中東のガザでは軍事衝突の収束のきざしが見えず、4 万以上の市民(とりわけ子ども・乳児)が犠牲になっています。ナチスの犠牲になったユダヤ人が建設した国家が、パレスチナ人に対して同様な侵略と虐殺を行うという事態、歴史学ではこうした事態を読み解く方法として「犠牲者意識ナショナリズム」という議論が提起されました。

また、アメリカをはじめとする西洋諸国のイスラエル寄りの態度には、西洋(白人)中心主義があり、ロシアのウクライナ侵略を批判しながら、イスラエルの侵略を支援するという二重基準が透けて見えます。

こんな中で日本被団協のノーベル平和賞受賞は喜ばしいことでした。田中熙巳さんのスピーチを生で聴きました。特に、「何十万という死者に対する補償は一切なく、日本政府は一貫して国家補償を拒み」という言及には「よく言ってくれた」と拍手を送りました。さらにオスロでの授賞式などを終えて帰国する代表団が搭乗する、スカンジナビア航空の客室乗務員が CEO に直接メールを送りエコノミークラスの座席をビジネスクラスへ変更する許可を取り付け、日本到着の直前に被団協の粘り強い活動への感謝のアナウンスを行ったという記事(2024.12.22 朝日)には暖かいものがこみ上げました。

隣の韓国で大統領の戒厳令を数時間で阻止した議員や市民の真夜中の素早い行動に頭を垂れました。多くの犠牲のうえに勝ち取った民主主義を再び転覆させない・身体を張って護るという韓国国民の政治意識の高さに脱帽です。日本人は果して同じ行動ができるのか。新たな戦前という指摘が実感を持って受け止められている今の日本です。対岸の火事とは言い切れません。

物価が上がり、スキー場のリフト券も値上がりしスキーを続けるには様々な知恵と工夫が必要です。そんな中でも仲間とともにゲレンデを駆けるという楽しみは大切にしたいですね。今シーズンも大いに滑りましょう。

(注) 田中熙巳さんのスピーチは次の URL で。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241211/k10014664891000.html>

幹事会報告：12月18日(水) Zoom 会議

出席：大橋、菊地、平子、高田、中島、安高

- 指導員研修会：12月14~15日(土、日)、札幌国際スキー場、参加申込者2名(伊藤、安高)
 - 初滑り会：12月21日(土)、オーズから手稲ハイランドに変更、参加予定者5名(伊澤、伊藤、高田、中島、安高)
 - 第1回例会：1月5日(日)、手稲ハイランド、参加予定者4名(李鳳、伊澤、大橋、高田)
 - スキーフェスティバル：2月1~2日、カムイリンクス、参加希望者なし
- 次回幹事会：1月15日(水) 18:00より Zoom 会議

幹事会報告：1月15日(水) Zoom 会議

出席：大橋、菊地、平子、高田、中島、安高

- 指導員研修会：12月14~15日(土、日)、札幌国際スキー場、参加者1名(伊藤)
- 初滑り会：12月21日(土)、手稲ハイランドに変更、参加5名(伊澤、伊藤、高田、中島、安高)
- 第1回例会：1月5日(日)、手稲ハイランド、参加2名(伊澤、高田)
- 第2回例会：1月26日(日)：手稲ハイランド、参加予定者6名(李鳳、大橋、菊地、平子、中島、安高)

- 第3回0回：2月16日（日）：手稲ハイランド、次回の幹事会で配車などの詳細を検討する。
- スキーフェスティバル：2月1～2日、カムイリンクス、参加希望者1名（伊澤）
次回幹事会：2月12日（水） 18：00より Zoom会議

初滑り会（12月21日、手稲ハイランド、）

報告：安高 誠吾



当初はオーズスキー場を予定していましたが雪不足で、手稲ハイランドに変更。道スキー協役員のご配慮で急な変更にもかかわらず学習券を貰うことができました。朝はよく晴れていて、風力発電の風車が海上に並び石狩湾や遠くの山々の景色がとてもきれいでした。初滑りなので、まずブルークファーレンやターン、横滑り、急停止などの基礎的な土台作り。また検定種目の指導法実技の予行練習として、伊藤さんに初歩パラレルIIや何種類かのヴァリエーショントレーニングを指導してもらいました。ハイランドもまだ積雪不足で、女子大回転や回転バーンなど急斜面は立ち入り禁止でしたが、緩斜面や中斜面で練習することができ初滑りとしてはまあまあでしょう。（参加者：伊澤、伊藤、高田、中島、安高）

指導員研修会と指導員養成（実技）に参加して

報告：伊藤 健

12月14～15日の札幌国際での研修会はおよそ40人が参加し、8人の班が5つという大人数でした。デモンストレーターの宮腰さんの班になり、宮腰さんから私の滑りの修正点として外向が強すぎると指摘されました。特に左脚外足のターンの時に強いと。腰を外に向かせないよう、左腕を伸ばす方向は、スキーの向きより外を向いてはダメ、スキーの向きより内側を向いたらローテーションですと教えていただきました。宮腰さんの講習は一人一人にとっても熱心にアドバイスをくださって、ありがたいと思うと同時に、頑張ろう！と思いました。レッスン終了時にはこの姿勢が身体に染み込んで、よくなりましたよといただき、とても嬉しい気持ちになり充実した2日間でした。

1月12、13日の萩の山スキー場での指導員養成（実技）の参加者は12人位だったと思います。全国スキー協の野瀬さんが滋賀県から来てくださって講習をしてくださいました。野瀬さんのレッスンも一人一人に時間をかけてアドバイスをくださり、それから自分の滑走を動画で見ることができてアドバイスを再認識することができました。

私の滑りは、左右ターンともにひねりが強すぎると指摘されました。山回りでスキーをずらすのをずらさずにスキーの角づけしてスキー性能でターンするようには言われました。動画で見るとずらしが多いと自分でも認識しました。もっと縦長のターン、谷回りにもっと長い時間をかけたターンに修正したほうが良いと認識しました。修正箇所を認識できて収穫がありました。昨年の今頃は理解が浅かったし、自分の滑りを客観的に見ていなかったと認識しました。検定会、がんばります！

第1回例会（1月5日、手稲ハイランド）

報告：高田恵美子

頂上はマイナス11度でしたが、快晴で風もなく雪室も程よく、最高のスキー日和でした。参加は2名でしたが、研修に来ていた毎日スキースクール（大橋さんも参加）に合流させてもらい、竹ヶ原さんを講師に6名で滑りました。充実した3時間半（休憩をはさむ）の研修でした。「ダメなところは分析できるんだけど、体が言うことをきかないね～」

編集後記：今年も会報をどうぞよろしく。伊藤さんが今年も指導員検定に挑戦します。頑張ってください。みんなで応援しています。ネットサーフィンしていたらシマエナガの写真を見つけました。漢字では島柄長と書くそうです。尾が長いので柄長、シマは縞ではなくて、北海道に生息しているところから島が冠せられたとか。誰が言ったのか中央官庁的な命名で気に障りますね。「北海道だけが島じゃねえだろうが。そもそも日本は島国じゃねえの」(怒)。真っ白な体につぶらな瞳、「雪の妖精」と呼ばれ、いまや大人気。体重7、8gのこの鳥は動きが俊敏で、このように写真に収まることは稀だそうです。不安漂う年明けですが、エナガちゃんのように軽快に、澆刺と翔びたい。スキーもそのように滑りたい、です。（安ベエ）

